

道心



改歳之今辰

歳改まるるとき世界の
円かなることを祈る！

仏教でいう「円」とは、私と宇宙がぶつづき、人と人がぶつづき、自然と私がつづきという有り様を言うのです。政治が悪い、教育が悪い、家庭が悪い、自然破壊は誰の責任かという、私が悪いのではなからうかと、己の足下を照顧して見ると言われる、声が聞こえるような気がします。年頭に当たりご一同様のご健勝をお祈り申し上げます。

住職 横山 正賢

因果歴然

修証義 第四節

「今の世に因果を知らず業報を明めず、三世を知らず、善悪を弁まへざる邪見の党侶には群すべからず、大凡因果の道理歴然として私なし、造悪の者は墮ち修善の者は陞る、毫釐もたがはざるなり、若し因果亡じて虚しからんが如きは、諸仏の出世あるべからず、祖師の西来あるべからず。」

「今の世に因果を知らず業報を明めず」というのは、道元禪師「自身こそ在世の今を言っておられます、

己の生き方の報いは、己の生き方に原因があり結果を招くことに目覚めていないということ、三世を知らず」と申し立てているのであります。

今の世に善悪を弁えないで生きている仲間にはなると言われている。

己の今日の営み（生き方）は、命と共に父祖の営みとして、私に授かり、私をして現世に普遍され、さらに子々孫々へと伝承される過去・現在・未来を三世といわれるのであります。

今を生きている己の営みは過去の結果として在り、今をどう受け止めて如何に生きるかの生き方が明日か、後日か、数年後か、己の死後かに結果が現れる道理に目覚めて生きることを強く示唆されているのです。

「若し因果亡じて虚しからんが如きは」もし因果の道理を無視して生きるようであれば虚しいことである。人間の生き方がそうであるならば、お釈迦様のお覚りも、だるま様の教えも今日に伝わるということもなかったであろうと申されるのであります。お釈迦様も若い頃ご自身、人生に苦悩され出家されご修行された後に、移ろいゆく中に生かされている己に目覚められ、諸行無常・諸法無我の道理を覚られ、人間としての有り様を説かれたのが仏教なのです。

この節で大事なことは「大凡因果の道理歴然として私なし、造悪の者は墮ち修善の者は陞る、毫釐もたがはざるなり」ということにあると思えます。

ここに言われる善悪は人間が分別する善とか悪を言われているのではありませぬ、私たちが考える善とか悪とかは人間の価値観が基になって分別しますが、それは人間の仮の姿であって、真実に照らして善か悪かという、善悪に目覚めて生きなければ人生を虚しく過すことになることを戒めておられるのであります。私はこの戒めを次のように受け止めております。

己の現実が苦であろうと楽であろうと、現実を素直に受け止めて、今の命の有り様に目覚めて、過去も現在も未来も共に、今という現実の営みとして生きる生き方を示唆されていると思っております。

私が今年古希を迎えたことは道心二十三号で申しましたが、古希の人生を振り返って見るとき、つくづく考えさせられることがあります。

現代の世界や日本国の世情を考えると決して満足できる境涯とはいえませんが、私個人としての人生を振り返ってみますと、家庭・人・あらゆる巡り合わせ、貧しくて苦学の時も、小学生の頃病弱であったことも、癌を患ったことも、物質的損失を被ったことも、期待が裏切られたことも全てが、私の生きる知恵と力になって不思議に恵まれていることを実感いたします。

それを思うとき自分の能力や努力では及ばないものに気づき、幼い頃から知らず、知らず両親から仕付けられていたことや、周りの環境や人々の影響を受けて生かされていることを思うと、己の生き方も疎かに出来ないことを感じます。

誤った宗教は、 あなたを破滅に導く

愛知専門尼僧堂堂頭 青山 俊董

あやまれる求道は
あなたを破滅に導く

見知らぬ若い女性が一人で無量寺を訪ねてきました。入るなり玄関の板敷に印刷物を並べ、いま自分の信じている宗教の素晴らしさを熱心に説きはじめます。ここが禅宗のお寺で、私がその住職と知りながら、まったく臆する気配はなく、入信をさそうのです。一時間ほどお話を聞いたうえで、なんとかお断りしてひきあげていただきました。

台所をしながら様子を見ていた弟子の一人が、「鯛の頭も信心から」といいますけど、その信仰が正しいか正しくないかは別として、信じ込むということはいした勇気が出るものですね。禅宗のお寺と承知のうえでいらして先生に向かってあれだけ説けるんですから」と感心したほどもでした。

この「鯛の頭も信心から」という言葉は、信仰の陥りやすい盲目性と同時に、信ず

ることによって生み出される力の大きさをも語っています。「病氣」は「氣を病む」と書くように心のありようが大きく左右しますから、肉体が病んでいるよりも心が病んでいる部分のほうが多い病人にとつては、この種の信仰が一時的に病を克服する力となることは間違いないでしょう。しかし、正信か迷信かを見分ける冷徹な智慧のないまま、「ワラをもつかむ」思いで「すすめられるままに」「断れないままに」入ってしまった信仰が、正しい信仰でなかった場合、その宗教は阿片と化して人の心身をむしばみつくします。間違った教えにのめりこんだばかりに、本人の人生を狂わせてしまうばかりではなく、家族や親戚までも迷惑をおよぼし、言葉を尽しての説得も「法難」と称して聞く耳は全く開かれなという例は数知れません。

仏教では「信とは澄みわたった清き心」と教えております。三人よれば文殊の智慧などというあの「智慧」は、人間の知識ではありません。仏の智慧のことで「簡折断疑」と意識されております。「簡折」が「慧」で「断疑」が「智」です。何が真で何が偽か、何が善で何が悪か、なすべきことは何か、なしてならぬことは何かと、冷徹な目で扱ひわけてゆくの

が「慧」で、その果てに間違いないと疑いを断つのが「智」。そこにはじめてゆるぎない「信」があるのです。信の裏打ちが厳しい智慧であることを、幾重にも銘記しておかねばならないと思います。

茅をつかみそこねれば
その手を傷つけるごとく
あやまれる求道は
破滅に導く（法句経）

とお釈迦さまは説いておられます。

野山を走りまわっていて、ふと転びそうになった時、思わずつかんだ草が茅であったら、その手を傷つける。ちょうどそのような間違った信仰、間違った教えについてしまったら、その人生をさらに家庭をも取り返しのつかないところへ追いこんでしまうから、心して正しい宗教に、正しい教えを説く人に従いなさい——とおっしゃるのです。この機会にその宗

教が本物かインチキを見分けるものさしを、いくつかあげてみましょう。

第一に、正しい宗教は科学を超えるもの、あるいは科学を包みこむものであるけれど、科学に反するものではありません。ですからあまりに非科学的なことをいう宗教は、迷信と考えてよいでしょう。

第二には、無条件ですべてをいだけとってくださるのがほんとうの神・仏というものです。お詣りの仕方や、お供えの多少によって、御利益に増減があつたり、その宗教にとって不都合なことをすると「罰があたる」という形でおどしにかかるものは、インチキ宗教です。したがって先祖が崇つているとか、水子の霊が邪魔しているとかいって、除霊とか縁切りとかをしきりに持ち出して、むやみに金がかかるのも、眉つばものと思つたらよいでしょう。

第三には、超能力というような言葉が象徴するような、たとえば空中浮揚をしてみせるとか、そういうことが出てきたら、これも用心してください。

正しい宗教とは常識的で健康的なもの

第四に、教祖とか会長と呼ばれる方が、生き仏、生き神の座に君臨している宗教も要注意です。目のない信者を酔っぱらわせ、思うようにあやつるには、教祖は雲の上にいる方が効果的なのです。教祖

の髪の毛や、入浴した風呂の湯をとんでもない値段で売り、また信者の方も感激して飲む、そんな馬鹿げた状態は宗教でも信仰でもありません。

お釈迦さまさえ、「私はお前たちの師ではない」とおっしゃり、「法を師とせよ」と示され「法の前に皆兄弟である」と説いておられます。

第五に、人間社会という共同体の調和を壊してゆくようなあり方を強制するのは、やはり本当の宗教ではありません。オウム真理教の地下鉄サリン事件のようなひどい例は論外ですが、健全な常識ではちよつと考えられないような反社会性、反倫理的行為があつたら、これも要注意です。正しい宗教は倫理を包み、倫理を超えるものであつても、反倫理ではありません。

信心するあなたが家族から嫌われたら

内山興正老師（故人）のところへ、ある日一人のお母さんが訪ねてこられ、自分の坐禅が間違っていないかどうか心配だといってきたことがあります。

老師は次のように答えられました。「あなたの坐禅のあり方が正しいか正しくないかを証明するいちばんの証明者は、坐禅のことも宗教のことも何も知らない、あなたのご主人や子供さんだ。ご主人や子供さんから、お母さん、坐禅するよう

になつたらとてもよいお母さんになつた。こういうお母さんになれるのなら私も坐禅しよう」といわれるようになったら、あなたは間違いない坐禅をしている証拠です。しかし「お母さん、坐禅するようになったらそばへ寄りつきにくくなつた」とか、「お母さん嫌い！」といわれるようになったら、その坐禅は間違っている証拠です。

正しい宗教というのは、このようにきわめて常識的、健康的なものなのです。まだほかにもたくさんあります。最後にもうひとつだけとりあげておきたいことは、自分の宗教だけをよしとして、他を非難する宗教的エゴイズムです。これは新宗教に限らず世界的宗教といわれる宗教にあつても、もつとも陥りがちな落とし穴です。自分の信ずる教えに純粋であればあるほど、信ずる思いがひたむきであればあるほど、そのほかの教えは間違ひということになりかねませんから。道元禪師は、

「自法愛染の故に、他を毀謗することなかれ」

とおっしゃられますが、宗教的純粋さと、宗教的寛容とがどこでどう折りあつてゆくか、非常に難しい問題です。いずれにしても、宗教はたった一度の、たった一つしかない命を託するものなのです。冷厳な目で選んでゆかねばと思つてことです。

百山登覇達成に感謝

東区在住 清谷 克寛



昨年十一月十八日に念願の広島市近郊の山、百山登覇を達成し、その登山記録を、私の踏み跡「一人静かに里山歩き」としてまとめた。思えば一九九九年一月三日に母の急逝を機に禅昌寺さんとのつきあいが深まり、その後も何かと気を配って頂き大変良くしていただいている。そんな中、二〇〇二年二月に竹原市忠海町の黒滝山・白滝山の山登りへのお誘いを受け参加させて頂いた。当初は、方丈さんが檀家の皆さんが出来るだけ健康維持に心がけられるように、そして何より檀信徒相互交流の機会を作りたいとの思いで、こういった山歩きを企画されて居られるなどということはないもよらず、翌日の筋肉痛の事が頭をよぎり参加を躊躇していた事を懐かしく思い出す。結果的にはこの山登りがきっかけとなり、方丈さんの意図とは無関係に、ずるずると山登りにハマって行き、丸三年九ヶ月を経た昨年十一月、

これも何かの縁と亡き母の実家近くの服部上登山口から福山市駅家町の蛇円山（通称、備後富士）に登り、区切りの踏み跡を残すことが出来た。百山登覇達成の瞬間である。母も若い頃この道を歩いたかも知れないと思うと感慨はひとしおであった。

以前から歩くのは大好きを通り越した「歩き中毒症」「歩き依存症」状態で、昼休みの散歩、雨の日の徒歩通勤に加えて、休日の街への買い物など何処までもよく歩いた。そう、ウォーキングという言葉すらない時分からである。そういった状況であるので、山登りを始めるに当たっても、少なくとも自宅や大病院から見える山の名前は知りたし、出来れば登ってみたい、そして何よりそれぞれの山について語れるようになりたいと思うようになるのは自然の成り行きであった。

私にとつての山登りの魅力は単に頂上を極めたときの達成感や爽快感だけでなく、誰にも会うことなく、誰にも邪魔されることなく自分だけの時間がもてる事で、研究の行き詰まりやアイデアの枯渇から来るストレスから解き放たれ、次なる研究の進展への意欲をかき立てる充電時間となることもあった。こうして出来るだけ人に会わないことを祈りつつ、何ものにも代え難い自分だけの至福の喜びを求めて一歩一歩一人静かに頂上を目指し続けた結果、広島市近郊の山と名の付く山の殆どにその踏み跡を残すことが出来た。この間、特にガイドブック

に載っていない山では、登山口を探すのに難渋したり、踏み跡をトレースするのに四苦八苦しながらも、幸い大きな事故もなく歩き続けることが出来たことに改めて感謝感謝の気持ちでいっぱいである。

登った山の多くは「ひろしま百山」（中国新聞社）と「分県登山ガイド」広島県の山（山と溪谷社）に掲載されている山であるが、それ以外に個人のホームページで紹介されている山も三十七含まれている。これらの山の多くについては二度三度と繰り返し登っていることを考えると、この数年間は暑さ寒さに関係なく天候の許す限り毎週末、何処かの山を歩いていたことになる。まさに「休日は山に居ます」状態である。

さればと振り返ってそれまでの自分はその時何をしてたのかを思い出してみれば、盆正月も土日も休祭日もなく仕事仕事の毎日を過ごす典型的な仕事人間に他ならず、あろう事か正月三日の昼前であったにもかかわらず、母の訃報を告げる電話を受けたのも大学の研究室という有様であったのである。人生の一時期こうして仕事に打ち込める喜びを得られたこと自体は何物にも代え難い幸せであったと思うが、こんな仕事人間の息子の将来のことを母もそれとなく気に掛けてくれていただろうことも容易に推察される状況であった。

百山を登覇して一区切りはついたが、自らの健康維持のためはもちろん、来たるべき定年後の楽しみのためにもさらに



信州路秋の旅に参加して

安佐南区 中山俊郎

続けて行きたいと考えている。山については、「二度目は連れて行つてもらい、二度目には一緒に登り、三度目には他の人を連れて登つてあげなさい」とよく言われるが、これまで私は皆さんに連れて登つて頂き、皆さんと一緒に登ることで、山の楽しさを教えて頂いたが、これからは他の人にもこの楽しみをお知らせする

番となった。そこで今回とめた、私の踏み跡「一人静かに里山歩き」は、ガイドブックとしても利用できるようにと配慮した。諸般の事情からほんの数冊しか印刷できなかったが、当面はお寺の方に三冊置いてありますので、読んでみられたい方はお申し出ください。なお、パソコンを使用できる環境に居られる方は、

以下のアドレス(Kiyotani@hiroshima-nac.ac.jp)にその旨お申し出いただければ、関連する部分を添付ファイルとしてお送りすることも可能です。少しでも多くの方々に山登りの楽しさをお伝えできれば、そしてそれが皆様の健康維持の一助になれば幸いです。

合掌

禅昌寺と関係の深い青山俊董老師が住職をされている長野県の無量寺に参拝するのは夢であった。このたび十一月四日に無量寺の諸堂の落慶法要を機に信州旅行を計画して頂き大変感激したものです。家内と共に参加させて頂きました。

十一月三日、早朝の新幹線で岐阜羽島駅まで、広電観光バスに乗り換え午前十時最初の観光地国宝松本城に向けて出発、出発間もなく高速道は事故の為に渋滞、二時間遅れで松本城に着く。昼食後松本城の見学、国の宝だけあって見事な景観だった。五時前バスは諏訪湖ホテルに向け出発。五時四十五分ホテル到着。男女別々の部屋に入りゆつくり温泉を楽しみ七時半からの宴会も

大変盛り上り楽しい時間を過ごした。

十一月四日、今日は無量寺参拝の日、各々正装に着替、八時半頃長野県塩尻の無量寺前に着く。すでに多くの人が参列されており、我々も方丈さんを先頭に約五十米の参道を進み新装新たな本堂前に着き真新しい鐘楼堂との間を通り、私共は本堂に向つて左奥に座らさせて頂いた。その前に本堂に入ると目の前に青山老師が来られ、思わず広島から来ましたと言ひ朝の挨拶とお祝いの言葉を申し上げた。予定通り九時から法要が始まり初めに三宝御和讃の奉詠が聞こえて来た。禅昌寺勝友詠道会のメンバーも一緒に唱へさせて頂いた。

厳粛の内に法要も進み引き続き退堂式・青山俊董老師のお言葉を拝聴し涙が出て来ました。昼前に退堂式も終わり檀信徒を始め来賓の皆様は退堂された。我々は無量寺のご厚意により本堂で接待を受け昼食の弁当を頂いた。出発までの時間パンフレットを見ながら改めて本堂の内外を見学させて頂いた。これで旅行の八十%が終わった

と思うと身体力が抜ける想いであった。午後一時、無量寺と別れ善光寺に向い二時半駐車場に着く。案内人の説明で参拝を済ます。三時半出発、草津温泉桜井ホテルに五時五十分到着。ホテルに入る前、湯畑の見学を済ます。今日も宴会は七時半、ゆつくり草津の湯を堪能し今日は皆さんさぞお疲れかと思いきや宴会は盛大に盛り上がり楽しい一時を過ごした。

十一月五日、予定より早く出発、バスは浅間白根火山ルートに入り雄大な浅間山の麓を迂回しながら進む、途中唐松の紅葉がすばらしかった。バスは佐久市から霧ヶ峰高原に向い、白樺湖を眼下に見て車山を眺望しながら高原を進み諏訪インターから一路広島島に向つた。三日間の信州旅行も渋滞のハプニングはあったが事故もなく無事に終わった。

最後にこの計画を立案して頂いた方皆さんに心から感謝申し上げます、抜けた所は多くありますが私の旅の記録といえます。

◆道心趣味の会◆

短歌

奥山に神宿りしと人のいう
いや「ブッセ」は山に
「幸」あるという

如月は君逝きし月さみしきの
極まればわれ一人こもれり

東区 矢野 淑子

俳句

乾きくる 風カンカンと 竹を伐る
月に跳ぶ 鯨は泣いて ゐると言ふ
ふくふくと 布団ふくらむ 日向かな
右ひだり 違へて履く子 雪虫跳ぶ

廿日市市 伊藤 順二郎

落慶に 錦を添し 大銀杏
落葉松の 黄葉山々 覆いけり
紅葉の トンネルなせる 軽井沢

東区 青笹 俊枝

◆行事報告◆(平成十八年)

※年齢のせいかな近年思うことは一年が早く過ぎ去るように思う。昨年は特に多彩な行事もあり、一層早かったような気がする。

●一月一日

・年頭祈願大般若法要
午前十時よりお昼まで家族連れで賑わった。

●二月二十八日(火曜日)

・青山俊董老師講演会
公開講座のため県外からの参加もあり百二十人程が聴講した。

●三月十八日(土曜日)

・彼岸法要・護持会総会 開催
出席者百七十名程

●四月八日(土曜日)～九日(日曜日)

・四国八十八カ所巡り満願高野山へお礼参り 参加者四十名

●五月六日(土曜日)

・グランドピアノ披露コンサート

百十三人参加。音楽好きの親子連れ等で賑わい檀信徒交流会として毎年開催の声も出た。

●六月一日(木曜日)～九日(金曜日)

・イタリアの禅堂場視察とローマバチカン市国訪問の旅 二十名参加

●七月三十日(日曜日)

・お盆前諸堂掃除

多数のご奉仕の参加者で予定より早く終わることが出来た。

●八月六日(日曜日)

・盂蘭盆会施食法要

家族連れの参拝者で本堂にあふれた。

●九月三十日(土曜日)

・青山俊董老師講演会

県内を始め県外からの参加者もあり相変わらずの盛況であった。

●十月七日(土曜日)

・お月見コンサート「Tsukimi in 寺」

約四百七十人の聴衆が境内にあふれた。

●十一月三日(金曜日)～五日(日曜日)

・無量寺と信州路の旅 参加者三四名

●十二月十日(日曜日)

・年末大掃除

参加者の顔ぶれは相変わらずでしたが参加者多数で予定より一時間も早く済ませることが出来た。

◆年間行事案内◆

●春彼岸法要

三月十七日(土曜日) 午前十時半より法要、法話十二時迄
護持会員は引続き総会

●檀信徒交流会&演奏会

五月五日(土曜日)

●お盆前大掃除

七月二十九日(日曜日)

●盂蘭盆会法要

八月六日(月曜日)

●檀信徒本山参拝予定

十月六日(土曜日)～八日(月曜日)

●年末大掃除

十二月九日(日曜日)

■毎年恒例行事

●青山俊董老師講演会

二月二十八日(水曜日)

午前の部 午前十時半～十二時
午後の部 午後一時半～三時

(坐禅をされるお方は九時より)

参加費 二千元(午前・午後のみの方は各 千円) 昼食代一人 百円

※昼食は持参されても結構です。

お茶はご用意致します。

◎昼食が必要な方はお電話にてお申込み下さい。

●お月見コンサート

九月二十九日(土曜日) 予定

エリザベート音大 大代啓二教授のフルート&NHK交響楽団 岡崎耕

治さんのファゴットの予定で現在日程など調整中です。

■毎月定例行事

●上田宗箇流茶道稽古日

毎月一回 第二又は第四金曜日の予定 午後二時から

※お抹茶と和菓子を気軽に楽しむつもりでご参加下さい。

●御詠歌の会

第二金曜日午前十時より自主練習

第四金曜日午前九時より講師を招いて練習 昼まで

◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師の都合により変更する場合があります。初めて参加される方は、お寺に電話にてご確認下さい。

■毎週定例行事

●暁天坐禅会 月曜日～金曜日

毎朝午前六時～六時四十分まで

●水曜坐禅会

午後七時より坐禅・茶話会 終了八時半

●婦人坐禅会 毎週金曜日

午後一時より坐禅・茶話会 終了三時

(第一金曜日のみ坐禅の後、写経・茶話会)

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でも結構です。お寄せ下さい。